

---

## アルコールリズムの分野で仕事をしているAAメンバーに

---

下記に記すガイドラインは、さまざまなサービスの分野で活動するAAメンバーの経験からまとめられたものである。ここにはまた、「12の伝統」とAA評議会（アメリカ・カナダ）とによる指針が反映されている。

---

### このガイドラインが意図するものは？

これはAAメンバーとしての生き方についての提案に厳密にとどまるものである。AAメンバーとしての私たちは、差し出がましくその人の専門職の分野にまでアドバイスをするつもりはない。

お分かり頂けると思うが、ここで分かち合っている力と希望は、アルコールリズムの分野で仕事をしているAAメンバーにとって、AAでの回復の基本点の重要性に重点が置かれている。このガイドラインが、そのような回復を支え、高めるものになることを希望する。なお、ここであなたの専門家としての仕事のやり方まで論じるつもりではない。

さらに、何年にもわたる試行錯誤の中からここに受け継がれた経験により、私たちのフェローシップが多くのアルコールリズムの分野で現在占めている好ましいポジションを維持していけたらと願っている。

### 特にどういう人たちのために？

ここに書かれている提案は、アルコールリズムのプログラムや機関で、専門家として、もしくは有給の職員として勤務しているAAメンバー向けのものである。そのようなアルコールリズムの分野でのAA以外の仕事とは3つのタイプに分けられる。

- ① 直接アルコールクと1対1で向き合う仕事（ソーシャルワーカー、カウンセラー、看護婦、医師など）
- ② アルコールクと必ずしも1対1で接触するとは限らない、プログラム。コンサルタント、管理、調査、企画、教育などのポジションでアルコールクよりもア

ルコホリズムそのものに関わる人たち。

③上記①と②の組み合わせ。

### このガイドラインは、どのような経験を基盤としているのか？

この提案は、多数のAAメンバーが実際に現場で得た経験をそのまま忠実に表わしたもので、それらのAAメンバーはこの『紙上分科会』のために自分自身の経験を書き上げるという労をとってくれた。GSOが質問状を送付し、それに対して細かいところまで回答を書いてくれた。それは延べにして600年をゆうに超すAAの継続したソブラエティの経験と、400年以上にわたる専門的な分野での成功を総計したものということになる。各人の職業は、スキッドロウに対してつい先日ケースワークをした、というものから、長期間にわたったトップレベルの国家的プログラムまで、その範囲は多岐にわたっている。

### アルコールリズムの仕事には、どのようなAAの経験が役立つのか？

- 1・数年間におよぶ確実に継続したソブラエティがあって初めて、アルコールリズムの分野で給料をもらう仕事に挑戦すべき、というのが質問状に回答を寄せたAAメンバーの一致した意見である。大多数の意見ではそれが5年であり、少数意見として3年というのがあった。
- 2・ただひとつのグループだけでなく、いくつかのAAグループで経験のある人でなければならないと回答者は指摘している。グループの仕事のほかに、AAでのサービスの経験としては、施設やAAのセントラルオフィスでのボランティア活動、代議員、インターグループ代表、各種AA委員会のメンバーとしての経験があることが望ましいと書いてきている。

AAメンバーのなかには、AAの中では“奉仕を任された僕”の任にあり、同時にアルコールリズムの機関でも仕事をしている、という人がいる。経験の示すところでは、AAについても、仕事上の責任についても、しっかりとした知識を持ってわきまえているAAメンバーは、どちらの役割においても価値ある仕事をしている。評議会でも、アルコールリズムの分野で仕事をしているAAメンバーであっても、フェローシップの中でサービスをする資格が持てるようにすべきであるということが確認されている。但しその人は、必要なAAの適格性を持ち合わせていること。

- 3・どのような仕事についても、AAメンバーに必要な特質とは、信頼、勇気、自己訓練

が繰り返し強調されていた。あるメンバーは、「アルコールリズムのビジネスのなかで生き残っていくには、謙遜、忍耐、寛容、そしてユーモアのセンスを伸ばしていくことだ」とも付け加えていた。

また、別の人は、「あなたはそこの職場では、ノン・メンバーの他の同僚にはない、ただ一人のAA経験者ということもありうる。だから、あなたはAAができることを示すサンプルにならなければならない。」

- 4・AAの伝統、および経験のなかからどのように伝統が生まれたかを理解していることが、アルコールリズムの分野で仕事をするAAメンバーにとって『絶対不可欠』である。

「自分の理解を深めるために私は、『ビッグブック』『12のステップと12の伝統』『成年に達する』をそれこそ何度も読み返した」と、あるメンバーは書いてきた。

たびたび引用されている伝統だが、伝統3でメンバーになるための資格、伝統5では第一の目的、伝統6で外部の企業のこと、伝統7で自立、伝統10で外部の問題に意見を持たない旨、そして伝統11では広報関係のことが述べられている。

- 5・常に最新のAAの進展状況を熟知していること、というのが多くのメンバーから推奨されていたことである。そうすれば「うっかりしてとか、無知から、AAを間違っただけの可能性が減る」と、あるメンバーが書き込んできた。この件で役立つものとしては、全AAパンフレット、ガイドライン、グレープバイン、BOX 459、評議会最終報告書があげられ、AAメンバーならどれでも入手できる。

特に役立つものとしては：

AAサービス・マニュアル	AAと職場のアルコールリズム・プログラム
AAメンバーが協力するには	治療施設のAA
広報ワークブック	刑務所のAA
専門家協力ワークブック	専門家へのメッセージ
あなたの町のAA	AAメンバー
絵で見る12の伝統	AA情報ペーパー

- 6・一般の人の考えからすれば、AAはアルコールリズムの分野の様々な機関とごちゃ混ぜにされている。ゆえに、重要なのはそれらの機関をよく知り、それらがどういうことをし、AAとの相違点は何なのかを見極めることだということを、何人かの回答者が書いてきた。

その機関とは：

Al-Anon (アラノン)	北米アルコール薬物問題協会 (ADPA)
アルコールリズム全国協議会 (NCA)	
アルコール濫用及びアルコールリズム国立研究所 (NIAAA)	
アルコールリズムコンサルタント・労務管理者協会 (ALMACA)	

- 7・あなたが職業についている地域のAAについて、しっかりした知識を持っていること——AAグループのことはもとより、インターグループ・オフィス、各委員会、ク

ラブハウスなど——の知識もたびたび必要とされる。

- 8・その人は、AAメンバーだからではなく、職業上の技術や経験があるから専門職についているのだということを、このガイドライン作りに貢献してくれたAAメンバーが、一様に圧倒的に口をそろえて言っている。
- 9・12番目のステップの経験の積み重ねが、貴重なトレーニングになる。
- 10・自分自身の仕事の実績や真意について、客観的に批判的になれる能力も役立つ。
- 11・スポンサーはアルコールリズム分野の仕事をしていない人の方が、何かといいようだ。

あなたが有給のアルコールリズム分野の専門家になったら、

あなたのAAの生き方の中でどのような問題に遭遇するか？

最初、多分がく然とすると思うが、何かにつけて、AAメンバーたちからあなたの新しい仕事について誤解を受けるようなことがあるようだ。

ソブラエティの長いメンバーの報告によれば、AAの初期の頃、当時はアルコールリズム関連の職業につくと「あいつはAAで金を稼いでいる」と非難されたという。その種の批判に対して恨みを持たずにいることは難しかった。

その当時からAAははるかに成長してきた。それでも尚、新しいアルコールリズムの仕事についたAAメンバーは、残念ながらAAメンバー側の情報不足や誤解の被害者になっているという回答が寄せられている。

個人攻撃を受けたように感じると思うので、こういう問題は特に微妙である（その原因が実際、原理についての誤解の場合）。あなたは『誤解を解きたい』とか『決着をつけてやる』という気持ちにかられると思うが、それでは一層事態が悪化するだろう。

どうしたらよいのか？

「自分は意義ある仕事をしているのであり、私はそれに対して給料を支払われる価値があるのだから、非常に気持ちの上でも頭の中でも安定していた。——自分が私利私欲や、自分の仕事のために、AAを利用しない限りにおいては」と、ある回答者が答えてきた。

別の人からは：「批判を受けた時、私はあせって対処しないようにしている。時間をかけて考えて検討してみる。自分自身のことだけでなく、他の人の立場も考えて、長い目で見て影響力を考慮している。」

別の人：「個人的な関心からすぐ手を出した方が最初は良いと思えたことが、よく考え

てみると、長い目からは最良ではないことが判明してきた。——私自身にとっても、私を雇っている機関にしても、AAのフェローシップ全体からみても」

別の人は：「あなたが給料を貰っているのは、ソブリエティを続けるためでも、AAミーティングに行くためでも、ステップ1・3・10・12とかのステップを踏むためでも、AAの伝統の精神の中で生きるためでもない。あなたがこれらのことを、自分自身で、自分自身のために、お金を受け取らずにやっていくなら、あなたは『お金を貰っているAAメンバー』でも『プロのAAメンバー』でもない。あなたが給料を受け取るのは、あなたのプロの仕事の上のことであり、AAのメンバーだからではない。」

けれどもこれが必ずしも明確というものではなく、特に比較的新しいAAメンバーにとっては、なおさらである。新しい人にとっては「アルコールリズムの分野で何らかの仕事を有給でしている人は、とにかくAAに背くもので、AAの信用を危うくするものと思われるようだ。」とは、別のメンバーの答えである。

AAメンバーが知識を一層豊富に得ていくにつれ、AAでは提供できないアルコールク向けのサービスを、実に多くの機関が行なっていることに気付いていく。そして「よく考えてみれば、それだけ成長しているメンバーなら、プロフェッショナルなサービスには、当然プロフェッショナルな料金が妥当であることに気付いていく」と書いてきた人もいる。（『アルコールクスアノニマス 成年に達する』176p/4行目から181p/10行目を参照）

そのような仕事につく前に、AAの友人と十分に話し合いを重ね、その人たちが理解してくれたか確認した上で実行した、と書いてきた回答者もいた。また、そのような仕事をしているAAメンバーと密接に連絡を取り合うことで、そういう問題に対処するヒントを受けたり、勇気や支援を受けているという人もいた。

多くの地域では、その分野で仕事をしているAAメンバーが定期的集まり、AAの問題について形式張らない分かち合いをしている。——そして経験と力と希望ももちろん！お近くのサービスオフィスやサービス委員会にお問い合わせを！

「批判を受けたからといって悩まないように」と、あるオールドタイマーが書いてきている。「しっかりした真心のこもった仕事をコツコツ続け、そしてプライベートな時間には良きAAメンバーであり続ける。やがてはそのような敵意のこもった批判も自然に消えていくだろう」

### 両方の役割をうまくこなす『成功の鍵』とは？

たった今あなたは、有給の職業上の立場で行動しているのか、または、AAメンバーとし

での役目を果たしているのか、あなた自身の気持ちの上で完全に明確に区別がついているだろうか？

「病院のベッドで意識を失ったアルコールクの傍に立っている時、それは必要とされる医師としての私の任務であり、12番目のステップ活動ではないことは何ら疑いの余地はない」医師であるAAメンバーはこう説明した。

だが常にそう簡単に説明がつくことばかりではない。

ある医療ソーシャルワーカーは書いてきた。「アルコールに問題のあるクライアントと話す時、非常に注意を払ってじっくりと考えてみなければならない——考えられるあらゆる結果を想定して——。衝動的に自分自身のAAの経験を出し抜けにしゃべった方がいいのか、それとも気を静め、ケースワーカーという専門家としての効力の方を使った方がいいのかを。2つの質問を自分に問うてみる。(1)この患者はまさにこの瞬間、何を必要としているのか？(2)どちらの場合でも、私は自分自身のエゴを押し出してはいないか、それとも、その患者の幸福を第一に考えているか？」

病院でアルコールリズムのカウンセラーをしているあるAAメンバーはこう書いてきた。「自分の頭だけで、今どちらの資格で行動しているのかを明確にしても、それだけで十分とは言えない。患者のケース会議の時、痛いほど分かったことは、私がAAにいることを知っている『一般人』のスタッフは、私がAAメンバーとして話をしている時と専門家としての立場で動いている時を区別しないため、AAがひどく混同されていることだ」

アルコールリズムの分野で仕事をしている多くのAAメンバーが、以下の意見に同意している。つまり、重要なことはあなたが今どちらの役割で、またどちらの立場で行動しているのかを、何らかの方法で、できるだけどんな時にも、しっかりと説明もしくは表していくことである。クライアントに対しても同僚に対しても明確にしていけば、AAとしての行動と専門家としての態度を混同されずにすむ。

これを実行する一つの方法は、仕事の肩書きに『AA』というイニシャルを絶対に入れないことだ、と何人かのプログラムディレクターが書き留めてきた。『AAカウンセラー』とは絶対にせず『アルコールリズムカウンセラー』という用語を使うことで、プロの機関も不快な思いをせずに済んでいる。

ここGSOにも、専門家になっているAAメンバーの活動について、不満を表わす一般AAメンバーからの手紙が寄せられる。そして専門分野からも、AAの役割を果たすためにプロとして勤めを怠るAAメンバーが引き起こす数々の問題も寄せられてくる。

一時にあくまでも一つの役割だけを行い、そしてAAメンバーとしての行動と専門家としての仕事の上での行動の違いを明確に示すことが、プロのためにも、AAメンバーのためにもなる。

役割を明確に個別のものとするための方法は？

役割を分離させるためのテクニックは幅広くある。極端な例を挙げれば、自分の仕事のことをAAメンバーやAAミーティングの場で話すことを断固として拒否する人もいる。正反対の例では、どんな状況でも両方の立場について気楽に何でも話す人もいる。ただし必ずある簡単な条件をつけている。例えば「AAメンバーとしては〇〇と感じているが、プロの立場の人間としては××や△△を推薦したい…」と。何人かのAAメンバーが書いてきたが「就業時間の9時から5時までは有給の専門家であるが、5時以降は自分のソブリエティの生き方の資質を高めようとしている単なる一人のアルコールクになる」

1978年のAA評議会の、治療施設内のAAグループに関する勧告では、このように締めくくっている。「施設で仕事をしているAAメンバーは、その施設内のAAグループを運営すべきではない、と感じられる」

回答者の大方の意見では冷静な社会常識こそ最も重要だと感じているようである。簡単に！それぞれのメリットから各状況に取りかかること。AAの伝統と適用の仕方をあなたが深く理解しているかを確かめること。言葉づかいにも細心の注意を払うように。

あるカウンセラーはこう書いてきた。「私は仕事で会ったクライアントに12番目のステップ（メッセージ）をしたり、スポンサーになることは絶対にしない。私はその人のカウンセラーとなり、12番目のステップは誰か他のAAメンバーに頼んでいる。けれども、自分のAAミーティングでは、他の人と同じように12番目のステップをするし、スポンサーにもなっている。もちろんスポンサーになっている相手とクライアントとを混同しないよう注意を払っている。そしてAAの中では専門家のような言葉づかいは一切避けている。」

ある回答者は、新しい人に対してスポンサーになることは避け、他のメンバーに頼んだ方がいいのではないかという提案を書いてきている。

あるAAメンバーのスピーカーはこのように説明している。「私はAAの中では、アルコールと回復についての私個人の経験をAAメンバーとしての立場だけで話したいと思っている。けれども特にということで頼まれれば、AAグループに対してでも、私の職業の部分も話すだろう。けれどもその場合、私があくまで主張することは、事前に私がAAメンバーとしてではなく、AA以外の仕事上の役割でそこで話すことを『お知らせ』として出すように頼むことである。そうすれば、がっかりされたり誤解されるのを防げる。」

また、ある人は、自分のホームグループがある地域では、いかなるAAミーティングであっても専門家としての資格で話すことは断っている。その人は「ここでは仕事の肩書きなしで済ませ、AAミーティングでは自分自身のAAの話だけしかしない。自分の仕事上のことは仕事の関連した場で話したいと思っているし、それも大体は自分の地域以外の場所が多い。」

医師のあるメンバーの場合はまったく逆で、自分が住む地域のミーティング場ではあくまでも専門家のゲストとして話をし、自分がAAメンバーであることは絶対に告げない。それをするのは、自宅から遠く離れた地域でだけである。

大体全員の回答者が強調していたことは、二つの資格を明確に分けておく最大の理由は、自分自身の回復を守るためだということである。「AAのステップとミーティングで与えられた回復に向かうプロセスと、アルコールクと関わる自分の専門職とを取り違えることなど私にはできない。」

### アルコール分野の仕事でAAメンバーが陥りやすいその他の罣は？

1・『自我の膨張と再発』——特に仕事上で好結果が見られるようになった時——に警鐘が發せられている。「謙虚さと感謝がむしろふさわしいばかりでなく、謙虚さと感謝こそずっと着実で、AAの教えに一致しており、そして私自身の成長にはるかに役立つものである」と、あるメンバーがまとめてくれた。

別の人によると「ホームグループでも、職場でも、AAのエキスパートのように思ったり、エキスパートと思われる言動は避けること。そしてAAのミーティング場でも、専門職のAA以外のサークルでも、アルコール分野のエキスパートであるように思ったり振る舞うことは避ける。

どちらの部分でもエキスパートようになってしまうと、職場の同僚からもAAの仲間からも反発を買うことになる。ところで、あちこちの酒場は、AAのエキスパートたちでもう満杯になっているんじゃないですか？」

2・アルコールのための仕事をしているAAメンバーではない専門家たちへの賞賛や信頼を忘れてしまうことも、よく陥る過ちである。「人はだれも、誠意ある評価を受ける必要があるし、受けるに値する。賞賛を惜しまないことで——ちゃんとした暖かみのある振る舞いで——友情も強力な状況も促進されていくことが分かった。」

3・自分と考えが違うAAメンバーでない人の考え方や、やっていること態度に、イライラしたり批判的になることも、付随して生じる危険性であると回答者は警告を発している。

「それはまったく具合の悪いことで、あなたの仕事も一層やりにくくなり、AAの敵を増やすことにもなる」ある大規模な施設の副所長はこう書いてきている。更に続けて「何といっても、AAを盾に外の人たちをトコトンやつつけようという頑張りの行動を抑えること。AAについての言い争いの罣に巻き込まれないこと。AAを弁護したり説明や解説を加えたい気持ちは避ける。フェロシップそのものの成果が雄弁にこのフェロシップを物語



る。口を閉ざし、言うがままにさせればいい。AA の自慢は控えること。AA がアルコールリズムに対する唯一もしくは完全な回答であると言ったり、その成功度を主張するようなおかしい言動は控える。

ノン・アルコールクの同僚が何らかの関心を示したら、AA ミーティングに連れて行くか、行ってみるよう勧めるか、もしくは「専門家へのメッセージ」や「A MEMBER'S EYE VIEW OF AA」といった簡単なパンフを渡すか、またあの有名な 1968 年 10 月号のグレープバインの医療関係特集号を渡す。

「だからそう言ったでしょ」という言葉は絶対にやめる。あなたは自分自身の仕事に専念し、AAがおのずから正当化されるようにすればよい。アルコールリズムの分野の人々全員をAAファンに変えることはあなたの仕事ではないし、AAメンバー全員に健全な専門家を愛してもらうように仕向けるのもあなたの責任ではない」彼は、このように警告している。

#### アルコールリズム分野の仕事でAAメンバーが陥りやすいその他の罠は？

AAと専門分野の人々との間で誤解が生じる原因となっているのは、経験によると以下の3点のようである。しかしそのような問題も、きちんと取り組んでいけば、簡単に解決できる。

##### 1、資金集め

幅広く知られているAAメンバーの名前が、寄付要請に関係あることにすると、AA自体が寄付を求めている、AAが寄付を集めている組織を支持していると誤解される場合が多い。そこでAAメンバーの名前は、絶対に、寄付やまた他の組織や他のプログラムを支持または提携していると思われるようなものに、使うべきではないと感じられる。

伝統7によれば、AAのオフィスもグループもAA以外のところからは金銭も贈答品も受け取れない。伝統6と伝統10によれば、AAはいかなる他の団体やプログラムに対しても反対したり支持したり、また提携関係に入ることはいない。

これらの伝統の舞台裏や伝統ができた理由を理解しているAAメンバーは多くのトラブルを防ぐことができる。「12のステップと12の伝統」そして「AA成年に達する」を参照のこと。

##### 2、調査

調査専門会社がAAメンバーを使って調査プロジェクトを企画することになると、かなり慎重を要する問題になってくる。AAメンバーの中にはアルコールリズムについての調査に全

く関心を持っていない者もいれば、そのような調査で自分がAAメンバーだと広く知られるのではないかと恐れる者もいる。専門機関の中には、AAの第一の目的をまだ知らないところもあれば、AAのオフィスもグループもAAメンバーに対して何かをするように要求はできない、ということも理解していないところもある。

しかしながら、AAメンバーを個人的な一般市民として関わらせる重要な価値ある調査プロジェクトもしっかりした準備体制が整った上で行なわれてきた。GSOでは、AAの伝統を破ることなく、攻撃せずに各AAメンバーの協力を得てそのようなプロジェクトをうまく成功させた専門調査員と連絡をつけることができる。またGSOでは「MEMO NO AA COOPERATION WITH RESEARCH PROJECTS AND NON-AA SURVEYS」も入手できる。

### 3、AA住所録

これらの住所録の目的は、AAメンバーが唯一AAのことにしてお互いに連絡が取れるようにすること、そしてアルコールクからの問い合わせにすぐ対処できるようにするためである。特に遠方の地域について。

内容としてメンバーの住所氏名が書かれているため、プライバシーを確実に保護できるよう表書きはマル秘扱いの親展となっている。GSOでもそのような信頼に背かないよう保証している。

もちろん、メンバーならだれでも、個人的にもグループを通してでも、GSOに注文できる。注文の際、必ずグループ名を入れること。

評議会評議員の判断または指示で、リハビリ・センターやホームなどの機関の一部にも渡す場合があるが、それはあくまでもAAに照会をするための用途に限定してのことである。

評議会により規定された手続きとは：

公的機関から要請（毎年更新される）があると、その機関の所在地の地域の評議員にその要請が回される。そこで評議員が、その機関は住所録を本来の用途に使用するところかどうか判断する。

お分かり頂けると思うが、これらの予防手段は住所録のとんでもない使われ方を防ぎ、何の権限もない人の手に渡ってしまうのを防ぐために必要なことなのである。もし私たちGSOにいる人間が、買いたいと言ってきた人に手当たり次第にどんどん送っていたら、名前やメンバーであることを他に知らせないという事で私たちを信じてくれている多くのメンバーの信頼を欺くことになる。

アノニミティについては？

フルネームを用いその人と分かる写真を入れて「私はAAメンバーだ」と言ったり、AAのメンバーであることを明らかにするのは、それが印刷物、テレビ、ラジオ、映画、その他の公のメディアでなされた場合のみ、伝統 11 の違反である。この伝統をいかなるかたちであろうと、たとえわずかであろうと、変更したいと思っている回答者は一人もいなかった。どのような状況であろうと、それを破ってもなお同情の余地があると考える人すらいなかった。

私たちのフェロウシップを守り、個人の回復にとっても非常に重要なこの伝統のことは、「AA成年に達する」「12 のステップと 12 の伝統」、そしてパンフ「AAの伝統が生まれるまで」「アノニミティをご存知ですか」に詳しく説明されている。

他のAAメンバーのことで、その人がアルコールクだとか、AAのメンバーだとかを絶対に明らかにしないという、私たちの倫理的な責任について、疑問を持った回答者は一人もいなかった（医者と患者、弁護士と依頼者、牧師と信者、という関係に誰も疑問を持たないように）。ご存知のように、AAの出版物やオフィス、グループ、委員会では、あらゆる努力を払って、いかなる形であろうと、誰かがAAメンバーだと明かさないようにしている。この分野のワーカーの場合、間違っとうかつにAAのメンバーの名前を誰かに知らせたりすることは絶対に避けるように特に努力を払う必要があると感じているという。

しかしながら、あなたが自分をAAメンバーだと明かすかどうかは、あなた自信の問題であり、明かしても、それが公のメディアの場でなければ、伝統 11 の違反ではない。

家族、友人、上司や同僚に対して、個人的な会計や、就職の話の際、またアルコールクをAAにつなげる助けをする時などに、教えるかどうかの決定については、全くあなた自信の判断や希望にそって行なわれてきたし、現在もそうである。

このように伝統とは、全く個人的なコミュニケーションにまで明確に口をはさむものではない。実際ステップ 5、9、12 では特に私たちが自分自身の回復のためにはどうやっているかを私たちが人々に話していくのだということを、提示している。このように個人的に知らせていく行為が、私たちの回復のプログラムの積み重ねとなっていく。私たちの誰もが初めてAAにつながったのは、誰かが 12 番目のステップを実践し（メッセージを運んでくれ）、その人自信アルコールクであることを、そしてAAでの回復のことを、正直にオープンに話してくれたからである。AAの伝統や習慣で、AAのメンバーは自分の病気を隠し、この病気からの回復を秘密にするよう提案しているものなど一切ない。私たちはアルコールリズムから回復していることを恥じていない。

ただ、印刷物やテレビなどで公に、たとえ簡単でも「私は回復したアルコールクである」と話すことは全く別の種類の問題である。それだけを言うこと自体は伝統の違反ではない。

ただしあくまでも放送や出版物の中でAAのメンバーであることを明かさないという条件付きである。ほとんどの回答者が双方の違いを理解していた。(伝統 11 の底流をなす原理は「アノニミティをご存知ですか？」に説明されている。)

ゆえに、(1) どんな場所であれ「私は<sup>(注1)</sup>回復したアルコールである」と話すことと、(2) 個人的な基盤でAAのメンバーであることを明かすこと、とは全く何の問題のないことである。けれども、そのどちらにせよ、それを話す事と場所についてはかなり広範囲な考慮すべき意見があった。

回答者の中には、機会あるたびに自分を「回復したアルコール」と話している、と言う人が何人かいた。それはアルコールズムを取り巻く汚名を消し、長い目で見ればアルコールという固定観念やアルコールに対する態度を変えていくことに貢献できるかもしれないと考えているからである。

(注1): AAメンバーは、“回復した”よりも“回復中のアルコール”という言葉を使っている。AA内では私たちは常により良い状態になろうという努力をしているため、“回復中”の持つ意味は明らかなのだが、AA以外の人たちにその違いの認識してもらえるか定かでなく“回復した”という言葉の方が一般的には通用しやすいでは、ということで使用した。

一方、短所を指摘してきた回答者もいる。もしあなたがかつて現役のアルコールであったことが知れた場合、あなたは即座に「特殊なひと」という見方をされ、恐らく客観的なプロフェッショナルとしての影響力が少なくなると言っている。

伝統 11 を厳守し、自分以外の人がAAのメンバーであることやアルコールズムであることを決して明らかにしないという方針を厳守することとは別に、あなたが自分で厳格な方針を設定し、たとえどのような状況になっても、そこから絶対にはずれないようにするという提案をしてきた人は実際ひとりもいなかった。

「現在アルコールズムで困っているクライアントと話するとき、多分あなた自身の話をすることで彼らの助けになれるかもしれない。けれどもそれが、彼らが自分からAAとつながってゆくことの妨げになるかもしれないのである。あなたの真意が理解されるかも疑わしい。あなたの行動が、あなた自信にあなたの話の聞き手に、そして将来のAA全体に、どのような影響があるのか忘れないように。かいつまんで言えば、私はこう言いたい。あなたの良識を恐れることなく点検し、それぞれのケースについての導きを祈りなさい、と」ある人からこのような手紙がきた。

多分同じような疑問に直面したことのあるAAメンバーと实例を話し合うことで学べるものが非常に多くあるだろう。またGSOで何か役に立てられるならGSOに手紙か電話で連絡を下さい。

## その他の提案

私たちと分かち合った良き経験から得たもので、多分役に立つと思われるいくつかのヒントを選び出してみる。

1. 「あなたが受けるアルコールリズムの基本的トレーニングは、個人的なあなた独自の経験だということを忘れないこと。AA以外の人たちは当然この病気を内側からではなく、外側から客観的に見ていかなければならない。こちらの見方の方がそちらの見方より良いとは一概に言えない。それぞれ違うものであり、どちらも今苦しんでいるアルコールクにとっては事実であり、良いことであり助けとなりうる」とある人が書いてきた。
2. 「あなたの仕事のほかに、もしくはそれに加えて、あなた自身の個人的なAAの生き方を確実に維持していくように」
3. 「AAミーティングに定期的に行くように。それもゲストのエキスパートとか大者としてではなく、ソブラエティを得たいと思い、耳を傾けようとする「新人」として。素晴らしいですよ！」
4. 「自分が間違っていたとか、申し訳なく思っているとか、知らないとか、参ったとか助けが欲しいとかを話すこと決して恐がるな。」
5. 「現在の仕事でソブラエティが危うくなりそうだったら、何といたっても仕事から手を引くように。アルコールリズムのビジネスは、AA内だろうとAA外だろうと、だれにとっても申し分のない天職というわけではない。そしてあなたのソブラエティと同じぐらい重要な仕事などない。」
6. 「AAメンバーとして話すときには、自分自身のことで話す旨を確実に力説していくこと。なぜならAA全体の代表者としてAA全体を代弁できるAAメンバーは存在しないからである。」

## アルコールリズムの仕事に従事しているAAメンバーについて、

### AAの歴史は何を示してきたか？

35年以上にわたって、AAメンバーはアルコールリズムの分野でプロとしての仕事をしている。私たちの共同創始者のドクター・ボブも彼自身のAAでのステップ12活動はもとより、外科医としてのプロの資格でアルコールクの治療もしていた。マーティ・Mは1944年に一般市民に対してアルコールリズムの啓蒙運動を始めた先駆者である。彼女の場合、ドクター・ボブやビル・W、その他の草創期AAメンバーの全面的な指示を得ていた。その時彼らは、アルコールリズムの一般教育に必要な組織化と資金集めは、AAができる力とAAの第一の目的の、外側のものであることを見てとった。

「AA成年に達する」の中でビル・Wが指摘しているように、1957年頃には、数多くのAAメンバーがソーシャルワーカー、調査員、教育者、看護婦（士）アドバイザー、リハビリ施設の理事などの資格でAA以外の組織が行なうアルコール問題の中で既に仕事をし、成功を収めている。

振り返ってみれば、アルコールリズムに関わるプログラムや施設のなかで活かせる専門的技術をAAメンバーに使わせないようにするのは不合理だし、無駄だということが現在の私たちには見て取れる。多くのAAメンバーが今や顕著な専門能力を使って、このアルコールリズムについての世間の理解と知識を広める上で貢献してきたし、AAの伝統の文字通りの意味と精神の範囲内で十分に動いている。それはできるはずのものであり、実際にできた。

しっかりしたAAメンバーであるのに加えて——AAの回復のメッセージを惜しげなく他のアルコールクに運びながら——AAメンバーで専門家でもある数多くの人々が、個人としては、精神科医、資金の調達者、心理学者、矯正官、裁判官、アルコールリズムの機関や施設でのカウンセラーとして、AA外の専門知識や技術を活かし、アルコールクのためにアルコールリズムという病気にかかった人のためにAAではできない、そして提供できない多くの核心的なサービスを行なっている。それらの専門分野では、医療や法的な援助、衣食住の提供、研究調査も行い職業指導をし、一般向けの啓蒙運動やコミュニティ・オーガニゼーション（地域組織化事業）などを行なっている。

「AA成年に達する」P. 117で、ビル・Wも言っているように、「私たちには、個人としてこのような幅広い分野で働きたいと願っているAAメンバーの意欲をそぐようなことをしてしまったら、実際それこそ反社会行為になるだろう。」

ビル・Wは専門分野で仕事をしているAAメンバーたちに対してこのようにアドバイスをしていた。アルコールリズムの分野の多くの専門家は私たちよりずっと経験は浅いわけで、私たちの経験は彼らにとって非常に価値あるべきものである。ただしそれも、私たちが精魂を込めた慎み深さと、謙虚さをもって彼らと分かち合っていくのならのことである。

ある長いソブラエティを持ったAAメンバーが書いてきた。「AAメンバーとしては、私たちは専門分野の権威者と話し合うことはない。それにもかかわらず、何千人もの人たちと関わった私たちのAAでの経験は、いくつかのことを非常に明確に示しており、感謝を持って私たちの理解と献身をあてはめていけば、アルコールリズムの分野に有意義で重大な貢献ができる」

別の人は、これらのあらゆる経験を、短く成文化したものがAAの12の伝統であると指摘している。